

# ジェンダー研究センター彙報<平成11年度>

(平成11年4月1日～平成12年3月31日)

職名は発令時による

## 1. 人事関係

<運営委員会名簿> (括弧内は在任期間)

ジェンダー研究 センター長(併)	原 ひろ子	(平成10年4月1日～ 平成12年3月31日)
文教育学部長	上野 浩道	(平成10年10月1日～ 平成12年3月31日)
理学部長	平野 恒夫	(平成10年4月1日～ 平成12年3月31日)
生活科学部長	板倉 壽郎	(平成11年4月1日～ 平成12年3月31日)
人間文化研究科長	徳丸 吉彦	(平成9年4月1日～ 平成12年3月31日)
附属図書館長	小池 三枝	(平成10年10月1日～ 平成12年3月31日)
文教育学部教授	天野 正子	(平成8年5月11日～ 平成12年3月31日)
理学部教授	松浦 悦子	(平成10年4月1日～ 平成12年3月31日)
生活科学部教授	會川 義寛	(平成11年4月1日～ 平成12年3月31日)
人間文化研究科教授	羽入佐和子	(平成11年4月1日～ 平成12年3月31日)
ジェンダー研究 センター教授	川嶋 瑤子	(平成11年10月1日～ 平成12年3月31日)
ジェンダー研究 センター教授	館 かおる	(平成8年5月11日～)
事務局長	橋本 幹夫	(平成11年4月1日～ 平成12年3月31日)

<スタッフ名簿> (括弧内は在任期間)

センター長(併) 専任教授	原 ひろ子	(平成10年4月1日～ 平成12年3月31日)
専任教授	川嶋 瑤子	(平成11年10月1日～ 平成12年3月31日)
専任教授	館 かおる	(平成8年5月11日～)
外国人客員教授	Amaryllis T. Torres (アマリリス・T・トーレス)	(フィリピン大学ディリマン校教授) (平成11年1月5日～ 平成11年6月30日)
	Malavika Karlekar (マラヴィカ・カールレーカル)	(インド女性と開発研究所教授) (平成11年7月5日～ 平成11年11月5日)
	Patricia Uberoi (パトリシア・ウベロイ)	(デリー大学経済開発研究所教授) (平成11年11月6日～ 平成12年3月31日)
客員教授(国内)	小林富久子 (早稲田大学教授)	(平成11年4月1日～ 平成12年3月31日)
	伊藤 るり (立教大学教授)	(平成11年4月1日～ 平成11年11月30日)
研 究 員 (非常勤講師)	大沢 真理	(東京大学社会科学研究所教授) (平成11年4月1日～ 平成11年10月31日)
	村松 安子	(東京女子大学教授) (平成11年4月1日～ 平成12年3月31日)

研究協力員	天野 正子 (本学人間文化研究科教授) (平成11年4月1日～ 平成12年3月31日)		松浦 いね (元たばこ総合研究センター研究員) (平成11年4月1日～ 平成12年3月31日)
	大井 玄 (国立環境研究所所長) (同上)		松田 久子 (元理化学研究所非常勤職員)(同上)
	大口 勇次郎 (本学人間文化研究科教授) (同上)		山崎美和恵 (埼玉大学名誉教授) (同上)
	木村くに子 (東京農業大学非常勤講師) (同上)		山本 禮子 (和洋女子大学教授) (同上)
	熊谷 圭知 (本学文教育学部助教授) (同上)		堀 千鶴子 (城西国際大学専任講師) (平成11年4月12日～ 平成12年3月31日)
	戈木クレイグヒル滋子 (東京都立保健科学大学助教授) (同上)		前田 侯子 (本学名誉教授) (同上)
	鈴木 伸枝 (ハワイ大学大学院 博士課程 Ph.D. 取得資格) (同上)		Tami Mcgrath (たみ・マッグラー) (カーティン工科大学博士課程) (同上)
	鈴木 陽子 (JICA 専門員) (同上)		山西 貞 (本学名誉教授) (同上)
	袖井 孝子 (本学生活科学部教授) (同上)		Jennifer H. Tiberghien (ジェニファー・ティベルギン) (スタンフォード大学大学院 博士課程 Ph.D. 取得資格) (平成11年6月15日～ 平成12年3月31日)
	竹村 和子 (本学人間文化研究科助教授) (同上)		外山 紀子 (平成11年4月1日～ 平成12年3月31日)
	田澤 薫 (国際医療福祉大学専任講師) (同上)	研究機関研究員	外山 紀子 (平成11年4月1日～ 平成12年3月31日)
	田中由美子 (JICA 評価監理室長) (同上)		渋谷 真樹 (同上)
	柘植あづみ (明治学院大学助教授) (同上)		長妻由里子 (同上)
	利谷 信義 (東京経済大学教授) (同上)	研究支援推進員	黒川 知美 (平成11年10月18日～ 平成12年3月31日)
	内藤 知美 (鎌倉女子大学専任講師) (同上)		村上みどり (平成11年4月1日～ 平成12年3月31日)
	中山 道子 (元立教大学助教授) (同上)	人間文化研究科 リサーチ・アシスタント	小山 直子 (同上)
	西山千恵子 (東京国際大学非常勤講師) (同上)	研究協力推進員	佐野 信子 (平成11年5月25日～ 平成12年3月31日)
			嶋根 政充 (平成11年4月1日～ 平成11年12月31日)

教務補佐員  
 荻野 正恵 (平成11年4月1日～平成12年3月31日)  
 造力 由美 (同上)  
 竹内 ゆり (同上)  
 安藤 玲子 (同上)  
 根村 直美 (同上)  
 亀口 まか (平成11年10月1日～平成12年3月31日)

<研修員等>

国連大学  
 派遣研究員  
 Mangala Subramaniam (マンガラ・スブラマニウム)  
 (コネチカット大学博士課程、国際連  
 合大学高等研究所博士課程研究員)  
 (平成11年9月1日～  
 平成12年1月23日)

2. 会議関係

<運営委員会の開催>

平成11年4月12日／5月24日(持回り)／6月15日／7月13日／7月29日(持回り)／8月19日(持回り)／9月9日(持回り)／9月22日(持回り)／10月8日／12月14日／平成12年1月25日／1月31日／2月15日

3. 研究調査活動

<センター研究プロジェクト>

I-1-1 「アジアにおける女性と開発」研究

[研究担当]

アマリス・トーレス (ジェンダー研究センター外国人客員  
 教授・フィリピン大学ディリマン校教授)

伊藤 るり (ジェンダー研究センター国内客員教授・立教大  
 学教授)

大沢 真理 (ジェンダー研究センター研究員・東京大学社会  
 科学研究所教授)

村松 安子 (ジェンダー研究センター研究員・東京女子大学  
 教授)

田中由美子 (ジェンダー研究センター研究協力員・JICA 評  
 価監理室長)

原 ひろ子 (ジェンダー研究センター長)

鈴木 陽子 (ジェンダー研究センター研究協力員・JICA 専  
 門員)

熊谷 圭知 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学文教  
 育学部助教授)

鈴木 伸枝 (ジェンダー研究センター研究協力員・ハワイ大  
 学大学院博士課程 Ph.D. 取得資格)

舘 かおる (ジェンダー研究センター教授)

マンガラ・スブラマニウム (ジェンダー研究センター国連大  
 学派遣研究員・コネチカット大学博士課程、国際連合大学  
 高等研究所博士課程研究員)

渋谷 真樹 (ジェンダー研究センター研究機関研究員)

[研究内容]

①平成11年4月17日(土) アマリリス・トーレス教授による  
 公開講演会「『真珠』に映った『太陽』：フィリピンと日本  
 におけるジェンダー化された労働と生活」“Reflections of  
 the Sun on a Pearl: Gendered Lives in the Philippines and  
 Japan”を開催した。於：文教育学部1号館第一会議室  
 (14:00～16:00)。参加者80名。

②アマリス・トーレス教授が、平成11年4月14日(水)～6月  
 23日(水)まで6回にわたって夜間セミナー“En-gendering  
 Development Assistance”「開発援助のジェンダー分析」を  
 行った。於：附属図書館第二会議室(18:30～21:00)。参  
 加者延べ170名。

4月14日(水) “Why Gender and Development?” 「なぜジェ  
 ンダーと開発なのか」

4月21日(水) “Vision and Agenda for Women’s  
 Development” 「女性の開発のためのビジョンと  
 課題」

5月19日(水) “Gender-focused Planning for Women’s  
 Development” 「ジェンダー中心の女性開発プラン」

5月26日(水) “Gender Analysis of a Development Project”  
 「開発プロジェクトのジェンダー分析」

6月9日(水) “Approaches to Institutional Mainstreaming of  
 Gender Concerns” 「ジェンダーの制度的主流化への  
 アプローチ」

6月23日(水) “Mainstreaming Development Assistance  
 Programs” 「開発援助プログラムの主流化」

③村松安子「開発と女性」研究会 全12回開催

平成11年4月16日／5月14日／6月18日／7月30日／8月20  
 日／9月17日／10月15日／11月19日／12月17日／平成12年1月  
 14日／2月18日／3月17日

- ④マンガラ・スブラマニウム (Mangala Subramaniam) が、平成12年1月13日(木)月例研究会で、“The Local-Global Interface in the Case of Mahila Samakhya Karnataka (India)”を報告した。於：附属図書館第二会議室。参加者10名。
- ⑤アマリリス・トーレス教授が “Women at Work in the Borderlands of a Global Economy: The Case of Filipino Women Workers in the Philippines and Japan” 「グローバル・エコノミーの境域における女性労働：フィリピンと日本におけるフィリピン女性労働者の事例」を『ジェンダー研究』第3号に執筆した。

#### I-2-1 「アジアにおけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツ」に関する研究

〔研究担当〕

- 原 ひろ子 (ジェンダー研究センター長兼教授)  
大井 玄 (ジェンダー研究センター研究協力員・国立環境研究所所長)  
戈木クレイグヒル滋子 (ジェンダー研究センター研究協力員・東京都立保健科学大学助教授)  
柘植あづみ (ジェンダー研究センター研究協力員・明治学院大学助教授)  
田澤 薫 (ジェンダー研究センター研究協力員・国際医療福祉大学専任講師)  
根村 直美 (ジェンダー研究センター元研究機関研究員)  
松原 洋子 (本学人間文化研究科助手)

〔研究内容〕

- ①「ジェンダーと健康 (GHS) 研究会」の研究成果報告書刊行に向けての個別打ち合わせを行った。
- ②教育改善推進費 (学長裁量経費) による研究報告書として、『「健康」と「ジェンダー」』を刊行した。  
(IV-1-1-②「大学教育とジェンダーⅣ」に関する研究参照)

#### II-1-1 「映像表現とジェンダー」に関する研究

〔研究担当〕

- 小林富久子 (ジェンダー研究センター客員教授・早稲田大学教授)  
竹村 和子 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学人間文化研究科助教授)

- 館 かおる (ジェンダー研究センター教授)  
磯山久美子 (本学大学院人間文化研究科博士後期課程)

〔研究内容〕

フェミニズムと現代思想研究会「映像表現とジェンダー」の研究会を開催した。於：附属図書館第二会議室 (13:00~17:00)。

5月10日(月) ピータ・カッターネオ監督『フル・モンティ』ビデオ鑑賞。中山信子 (早稲田大学大学院修士課程修了) による「男がになるとき」の報告。

7月5日(月) 神代辰巳監督『快樂学園—禁じられた遊び』ビデオ鑑賞。佐藤千広 (早稲田大学大学院修士課程) による「沈黙と濁音『快樂学園—禁じられた遊び』」の報告。

8月30日(月) 平山秀幸監督『愛を乞う人』ビデオ鑑賞、ディスカッション。

10月4日(月) 小林富久子による Maggie Humm の論文 “Cronenberg's Film and Feminist Theories of Mothering” の講読。

11月1日(月) デイビッド・クローネンバーグ監督『戦慄の絆』ビデオ鑑賞。磯山久美子による解説。

12月13日(月) デイビッド・クローネンバーグ監督『ビデオドローム』ビデオ鑑賞。水民潤子 (映画・アニメーション評論家) の報告。

平成12年

1月24日(月) デイビッド・クローネンバーグ監督『クラッシュ』ビデオ鑑賞。小谷真理 (SF&ファンタジー評論家) による「ポルノグラフィにおける男女の差異を『クラッシュ』に見る」の報告。

2月28日(月) 大林宣彦監督『SADA』ビデオ鑑賞。藤田和美 (本学大学院人間文化研究科博士後期課程) による「〈阿部定〉という記号—男殺しの女の物語」の報告。

#### II-1-2 「公共芸術におけるジェンダー」

〔研究担当〕

- パトリシア・ウベロイ (ジェンダー研究センター外国人客員教授・デリー大学経済開発研究所教授)  
原 ひろ子 (ジェンダー研究センター長兼教授)  
西山千恵子 (ジェンダー研究センター研究協力員・東京国際大学非常勤講師)

## 〔研究内容〕

①パトリシア・ウベロイ教授が、平成11年11月16日（水）～12月4日（水）まで4回にわたって夜間セミナー「大衆文化におけるジェンダーと家族」“Gender and Family in Popular Culture”を開催した。於：附属図書館第二会議室（18:30～21:00）。参加者延べ54名。

11月16日（水）“From Goddess to Pin-up: The Representation of Women in Indian Calendar Art”「女神からピンナップまで—インドのカレンダー・アートにおける女性表象」

11月30日（水）“Dharma and Desire, Freedom and Destiny: Rescripting the Man-Woman Relationship in Popular Hindi Cinema”「ダーマ・欲望、自由・運命—ヒンディー大衆映画における男女関係の書き直し」

12月7日（水）“Imagining the Family: an Ethnography of Viewing ‘Hum aapke hain koun!’”「家族のイメージ—『あなたにとって私は何』の観客の解釈の考察」

12月14日（水）“A Suitable Romance? Narratives of Courtship in Indian Popular Fiction”「ふさわしいロマンス？インド大衆小説における求婚の語り」

②平成12年1月10日にパトリシア・ウベロイ教授が、ワークショップ「国家のジェンダー：2つのジャンルのインド大衆文化における“国家であること”のイメージ」“The Gender of the Nation: Imagery of Nationhood in Two Genres of Indian Popular Culture”を開催した。於：附属図書館第二会議室（10:00～16:00）。参加者15名。

③平成12年1月29日にパトリシア・ウベロイ教授が公開講演会“The Women’s Body in Midlife: Socio-Cultural and Medical Perspectives from East and West”「中年期の女性の身体：社会文化的・医学的な東西比較」を行った。於：文教育学部1号館第一会議室（13:30～17:30）。延べ参加者62名。

コメンテーター：高村 寿子（自治医科大学看護短期大学）

通 訳：石井 浩子

④パトリシア・ウベロイ教授が“The Woman’s Body in Midlife: Socio-Cultural and Medical Perspectives from South Asia”を『ジェンダー研究』第4号に執筆。

## Ⅱ-2-1 「日記に見る近世日本の女性と社会」

## 〔研究担当〕

大口勇次郎（ジェンダー研究センター研究協力員・本学人間文化研究科教授）

頼梅颯研究会メンバー

## 〔研究内容〕

頼梅颯日記についての研究。論文集の発行に向けての準備を行なった。各人の構想と草稿をもとに全体会を開催。

## Ⅱ-2-2 「視覚文化／身体／ジェンダー」

## 〔研究担当及び内容〕

長妻由里子（ジェンダー研究センター研究機関研究員）が『ジェンダー研究』第5号に執筆予定。

## Ⅲ-1-1 「ジェンダー規範とその作用形態に関する研究」

## 〔研究担当〕

たばこ総合研究センターとの〈国内共同研究プロジェクト〉として推進。

松浦 いね（ジェンダー研究センター研究協力員・元たばこ総合研究センター研究員）

館 かおる（ジェンダー研究センター教授）

その他の「女性とたばこ」研究会メンバー

堀 千鶴子（ジェンダー研究センター研究協力員・城西国際大学専任講師）

磯山久美子（本学人間文化研究科博士課程）

藤田 和美（本学人間文化研究科博士課程）

中村 文（本学人間文化研究科博士課程・放送大学非常勤講師）

山崎 明子（千葉大学大学院博士課程）

## 〔研究内容〕

「女性とたばこ」研究会を開催。於：附属図書館第二会議室。研究報告書及びたばこ総合研究センター・お茶の水女子大学ジェンダー研究センター—館かおる・松浦いね編—単行本『女性とたばこの文化誌』の構成検討のための原稿を作成した。

## Ⅲ-1-2 「言語使用におけるジェンダーと権力作用」

## 〔研究担当及び内容〕

たみ・マッグラ（ジェンダー研究センター研究協力員・カーティン工科大学大学院博士課程）が、「病院における男の言語使用のジェンダー分析」を行った。

Ⅲ-1-3 「植民地下朝鮮における女子中等教育の研究」

〔研究担当〕

山本 禮子 (ジェンダー研究センター研究協力員・和洋女子  
大学教授)

舘 かおる (ジェンダー研究センター教授)

その他の高等女学校研究会メンバー

新井 淑子 (埼玉大学教授)

福田須美子 (相模女子大学教授)

太田 孝子 (岐阜大学助教授)

〔研究内容〕

①高等女学校研究会を開催。於：ジェンダー研究センター長  
室。

『アンケート調査報告書』を作成した (平成12年3月)。

平成11年

5月15日 (土) 「朝鮮における高等女学校・女子高等普通学  
校の概要」の報告。

7月19日 (日) 「韓国ソウルにて京畿高女・梨花高女卒業生  
から聞き取り調査」報告。

12月18日 (土) 鄭世華先生にインタビュー。

平成12年

3月22日 (木) 『アンケート調査報告』、単行本『朝鮮におけ  
る高等女学校』出版計画の検討。

②太田孝子が「植民地下朝鮮における龍谷高等女学校」を  
『ジェンダー研究』第3号に執筆した。

Ⅲ-2-1 「日本社会のジェンダー観」に関する研究

〔研究担当〕

舘 かおる (ジェンダー研究センター教授)

佐野 信子 (人間文化研究科リサーチ・アシスタント)

〔研究内容〕

佐野信子が「日本におけるスポーツとジェンダー」に関する  
研究を行なった。

Ⅲ-2-2 「ジェンダーと自己形成過程」に関する研究

〔研究担当〕

渋谷 真樹 (ジェンダー研究センター研究機関研究員)

外山 紀子 (ジェンダー研究センター研究機関研究員)

〔研究内容〕

渋谷真樹が『ジェンダー研究』第3号に「マイノリティ集団  
内部の多様性と力関係」を執筆した。

Ⅲ-2-3 「ライフヒストリーとジェンダー表象」

〔研究担当〕

マラヴィカ・カールレーカル (ジェンダー研究センター外国  
人客員教授・インド女性と開発研究所教授)

〔研究内容〕

①マラヴィカ・カールレーカル教授が平成11年7月18日(日)  
～20日(火)にわたり、ワークショップ “Life History,  
Narratives and Representation” 「生活史、語り、表象」を  
開催した。於：附属図書館第二会議室 (10:00～17:00)。  
参加者延べ53名。

7月18日 (日) “Introduction to Workshop on Personal  
Narrative, Oral History and Representation”

「私的な語り、口承の歴史と表象の歴史に関するワ  
ークショップ導入」

7月19日 (月) “Oral History: Methods and Case Studies”

「口承の歴史—方法と事例研究」

7月20日 (火) “Visual Representation: The Role of  
Photography in Reconstructing Social History”

「視覚表象—社会史の再構築における写真の役割」

②10月2日 (土) 国際シンポジウム “Gender, Ethnicity and  
‘Race’” 「ジェンダー・エスニシティ・“人種”」を開催した。  
於：文教育学部1号館第一会議室 (10:00～17:00)。参  
加者101名。

報告者：

マラヴィカ・カールレーカル (ジェンダー研究センター外国  
人客員教授・インド女性と開発研究所教授)

“Gender and Ethnicity in India: A Case Study from  
Nagaland” 「インドにおけるジェンダーと人種—ナガラ  
ンドの事例から」

エスター・N・チャウ (アメリカン大学教授)

“Race/Ethnicity, Class, and Gender: Development of Theory  
and Research in the U.S.” 「人種/エスニシティ、階級、お  
よびジェンダー：アメリカにおける理論と研究の発展」

コメンテーター：伊藤 るり (ジェンダー研究センター客員教授)

通 訳：田中 深雪・武 浩子

③マラヴィカ・カールレーカル教授が『ジェンダー研究』第3号に“A Privileged Childhood—Memoirs of an Indian Civil Servant’s Daughter”「特権階級の子供時代—あるインド文官職の娘の回想録」を執筆し、長妻由里子（ジェンダー研究センター研究機関研究員）が翻訳した。

④エステル・N・チャウ教授が『ジェンダー研究』第3号に“Race/Ethnicity, Class, and Gender: Development of Theory and Research in the U.S.”「人種／エスニシティ、階級、およびジェンダー：アメリカにおける理論と研究の発展」を執筆し、ホーン川嶋瑤子（ジェンダー研究センター教授）が翻訳した。

### Ⅲ-2-4 「家族とジェンダーに関する研究」

〔研究担当及び内容〕

内藤知美（ジェンダー研究センター研究協力員・鎌倉女子大学専任講師）が「母娘とジェンダー」に関する研究をまとめた。

### Ⅳ-1-1 「大学教育とジェンダーⅣ」に関する研究

〔研究担当〕

<学内共同研究プロジェクト>として、教育改善推進費による研究組織を構成。

①大学教育とジェンダーに関する統計的、総合的分析

〔研究担当〕

原 ひろ子（研究代表者：ジェンダー研究センター長）

天野 正子（ジェンダー研究センター研究協力員・本学人間文化研究科教授）

川嶋 瑤子（ジェンダー研究センター教授）

館 かおる（ジェンダー研究センター教授）

利谷 信義（ジェンダー研究センター研究協力員・東京経済大学教授）

外山 紀子（ジェンダー研究センター研究機関研究員）

黒川 知美（同上）

〔研究内容〕

『大学教育とジェンダー』単行本刊行に向けて構成やデータの加工についての検討を行った。

②諸学問における「健康概念とジェンダー研究」に関する分析を行った。

〔研究担当〕

大井 玄（ジェンダー研究センター研究協力員・国立環境研究所所長）

柘植あづみ（ジェンダー研究センター研究協力員・明治学院大学助教授）

松原 洋子（本学人間文化研究科助手）

根村 直美（ジェンダー研究センター元研究機関研究員）

〔研究内容〕

研究報告書としてジェンダー研究センター編『「健康」と「ジェンダー」』を刊行した。

③自然科学（化学）とジェンダーに関する研究

〔研究担当〕

前田 侯子（ジェンダー研究センター研究協力員・本学名誉教授）

松田 久子（ジェンダー研究センター研究協力員・元理化学研究所非常勤職員）

小山 直子（ジェンダー研究センター研究支援推進員）

〔研究内容〕

研究報告書として『黒田チカ資料目録』を刊行した。

### Ⅳ-1-2 「開発とジェンダー」教育プログラムに関する研究

〔研究担当〕

伊藤 るり（ジェンダー研究センター客員教授・立教大学教授）

館 かおる（ジェンダー研究センター教授）

〔研究内容〕

タンダム・トゥルン（平成8年度外国人客員教授）の夜間セミナーをもとに単行本刊行の準備をした。

### Ⅳ-2-1 「学問研究における男女共同参画に関する研究」

〔研究担当〕

原 ひろ子（ジェンダー研究センター長）

村上みどり（ジェンダー研究センター研究支援推進員）

〔研究内容〕

女性科学研究者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）と共同研究を行った。

IV-2-2 「女性と自然科学に関する研究」

〔研究担当〕

松田 久子 (ジェンダー研究センター研究協力員・元理化学研究所非常勤職員)

山崎美和恵 (ジェンダー研究センター研究協力員・埼玉大学名誉教授)

前田 侯子 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学名誉教授)

山西 貞 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学名誉教授)

舘 かおる (ジェンダー研究センター教授)

小山 直子 (ジェンダー研究センター研究支援推進員)

黒川 知美 (ジェンダー研究センター研究機関研究員)

〔研究内容〕

①理化学研究所一般公開において、ビデオ解説、パンフレット作成、展示協力、ビデオ上映会解説協力をした。(4月17日)

②教育改善推進費(学長裁量経費)による研究報告書として、『黒田チカ資料目録』を刊行した。(IV-1-1-③「大学教育とジェンダーⅣ」に関する研究参照)

③黒川知美が「天文学分野の女性研究者の現状」を『ジェンダー研究』第3号に執筆した。

IV-2-3 「法学とジェンダー」

〔研究担当〕

利谷 信義 (ジェンダー研究センター研究協力員・東京経済大学教授)

中山 道子 (ジェンダー研究センター研究協力員・元立教大学助教授)

木村くに子 (ジェンダー研究センター研究協力員・東京農業大学非常勤講師)

〔研究内容〕

フランスス・オルセン(平成9年度外国人客員教授)の夜間セミナーをもとに単行本の刊行準備をした。

V-1-1 「女性政策推進機構の研究」

〔研究担当〕

袖井 孝子 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学生活科学部教授)

V-1-2 「社会政策、社会保障制度とジェンダー」に関する研究

〔研究担当及び内容〕

大沢 真理 (ジェンダー研究センター研究員・東京大学社会科学研究所教授)

ジェニファー・ティベルギン (ジェンダー研究センター研究協力員・スタンフォード大学大学院博士課程 Ph.D. 取得資格)

ともに個人研究を推進した。

V-2-1 「女性の国際ネットワーク活動」に関する研究

〔研究担当〕

原 ひろ子 (ジェンダー研究センター長兼教授)

村上みどり (ジェンダー研究センター研究支援推進員)

〔研究内容〕

GO、NGOの連携の推進と国際ネットワークの情報を収集した。

VI-1-1 ジェンダー研究センター所蔵文献及び諸活動の情報提供システム研究

VI-2-1 ジェンダー研究文献のカテゴリー化に関する研究

〔研究担当〕

舘 かおる (ジェンダー研究センター教授)

小山 直子 (ジェンダー研究センター研究支援推進員)

〔研究内容〕

ジェンダー研究センターのホームページの作成・更新の検討、研究文献のカテゴリー化に関する研究を行った。

<学内共同研究プロジェクト>

教育改善推進費による<学内共同研究プロジェクト>として、「大学教育とジェンダーⅣ」の研究を行い、データ加工資料の作成を行った。(IV-1-1-①「大学教育とジェンダーⅣ」に関する研究参照)

<国内共同研究プロジェクト>

①たばこ総合研究センターと共同研究を行い、単行本の構成検討原稿『女性とたばこの文化誌』を刊行した。(III-1-1「ジェンダー規範とその作用形態に関する研究」参照)



②国立民族学博物館地域研究企画交流センター（研究代表：押川文子）とジェンダー研究センター（研究代表：原ひろ子）との連携研究として、東アジア、南アジア、中東を中心とする研究会を開催した。

#### <国際共同研究>

国立婦人教育会館との共同研究（文部省科学研究費補助金国際学術研究）「開発と女性に関する文化横断的調査研究（研究代表：大野曜）」におけるタイの研究分担者として原ひろ子が報告書を作成した。

#### 4. 研究交流・成果公表活動

##### <公開研究会・講演会・シンポジウム>

平成11年4月より平成12年3月の間の発表者及びその題目は次の通りである。（敬称略）

##### 4月17日（土）公開講演会

アマリス・トーレス（ジェンダー研究センター外国人客員教授・フィリピン大学ディリマン校教授）  
『『真珠』に映った『太陽』：フィリピンと日本におけるジェンダー化された労働と生活』（I-1-1-①「アジアにおける女性と開発」参照）

##### 5月20日（木）月例研究会

宋連玉（青山学院大学助教授）「植民地支配と性—朝鮮における日本式公娼制度の拡大過程—」

##### 6月24日（木）月例研究会

長江曜子（聖徳大学短期大学助教授、石匠あづま家代表取締役社長）「女性とお墓—両家墓から見る意識変化について—」

##### 7月22日（木）月例研究会

宮園久栄（中央大学兼任講師）「フェミニズム視点による女性犯罪研究の試み—DVを手がかりに—」

##### 9月21日（火）月例研究会

Prof. Mridula Mukherjee（J・ネルー大学教授、東京大学東洋文化研究所客員教授）「Women in India's Struggle for Independence: The Gandhian Phase」

##### 10月2日（土）国際シンポジウム “Gender, Ethnicity and ‘Race’” 「ジェンダー・エスニシティ・“人種”」

##### 報告者：

マラヴィカ・カールレーカル（インド女性と開発研究所教授、ジェンダー研究センター外国人客員教授）

“Gender and Ethnicity in India: A Case Study from Nagaland” 「インドにおけるジェンダーと人種：ナガランドの事例から」

エスター・N・チャウ（アメリカン大学教授）

“Race/Ethnicity, Class, and Gender: Development of Theory and Research in the U.S.” 「人種／エスニシティ、階級、およびジェンダー：アメリカにおける理論と研究の発展」

コメンテーター：伊藤 るり（ジェンダー研究センター客員教授）

通 訳：田中 深雪・武 浩子

（Ⅲ-2-3-②「ライフヒストリーとジェンダー表象」参照）

##### 11月11日（木）月例研究会

シニット・シティラック（Sinith Sithiraksa）（タイの「女性と環境」ネットワーク（WENIT）代表：タマサート大学講師）“Environment, Gender and Development”

##### 平成12年

##### 1月13日（木）月例研究会

マンガラ・スブラマニウム（Mangala Subramaniam）（コネチカット大学博士課程、国際連合大学高等研究所博士課程研究員・ジェンダー研究センター国連大学派遣研究員）“The Local-Global Interface in the Case of Mahila Samakhya Karnataka (India)”

##### 1月29日（土）公開講演会

パトリシア・ウベロイ（デリー大学経済開発研究所教授、ジェンダー研究センター外国人客員教授）

講演会「中年期の女性の身体：社会文化的・医学的な東西比較」

コメンテーター：高村寿子

通 訳：石井浩子（Ⅱ-1-2-③「公共芸術におけるジェンダー」参照）

##### <セミナー・ワークショップ>

##### 4月14日（水）～6月23日（水）夜間セミナー（計6回）

アマリス・トーレス “En-gendering Development Assistance”（I-1-1-②「アジアにおける女性と開発」参照）

7月18日(日)~20日(火) ワークショップ3日間  
マラヴィカ・カールレカール「生活史、語り、表象」  
(Ⅲ-2-3-①「ライフヒストリーとジェンダー」  
表象参照)

11月16日(火)~12月14日(火) 夜間セミナー(計4回)  
パトリシア・ウベロイ「大衆文化におけるジェン  
ダーと家族」(Ⅱ-1-2-①「公共芸術におけるジ  
ェンダー」参照)

平成12年

1月10日(月) ワークショップ  
パトリシア・ウベロイ「国家のジェンダー：2つの  
ジャンルのインド大衆文化における“国家であるこ  
と”のイメージ」(Ⅱ-1-2-②「公共芸術にお  
けるジェンダー」参照)

<刊行物>

- ①お茶の水女子大学ジェンダー研究センター編・刊『ジェン  
ダー研究—お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年  
報』第3号刊行(平成12年3月)
- ②お茶の水女子大学ジェンダー研究センター編・刊『「健康」  
と「ジェンダー」』(平成12年3月)
- ③たばこ総合研究センター・お茶の水女子大学ジェンダー研  
究センター編・刊『女性とたばこの文化誌』(単行本構成  
検討原稿)(部数限定)(平成12年3月)
- ④お茶の水女子大学ジェンダー研究センター編・刊  
『黒田チカ資料目録』(平成12年3月)

<刊行協力>

国立大学協会・男女共同参画に関するワーキンググループ編  
『国立大学における男女共同参画を推進するために』の作成  
に協力した。

## 5. 研究指導・教育活動

<研究生>

江川 真弓 「死産・流産と文化」  
(平成11年4月1日~平成11年10月30日)  
亀口 まか 「近代日本における男女平等思想と河田嗣郎」  
(平成11年4月1日~平成11年9月30日)

<学部出講・大学院担当>

原 ひろ子  
生活科学部 比較女性論(前期)  
人間文化研究科博士前期課程 発達社会科学専攻  
開発・ジェンダー論コース  
比較ジェンダー開発論(前期)  
比較ジェンダー開発論演習(後期)  
開発・ジェンダー論特論(前期)  
発達社会科学論(後期)  
人間文化研究科博士後期課程 人間発達科学専攻  
ジェンダー論講座  
国際女性開発論演習(1)・(2)

舘 かおる

コア科目(基礎講座)女性問題(前期)  
コア科目(総合コース)女性と教育(後期)  
文教育学部 社会教育特講I(前期)  
生活科学部 ジェンダー論(前期)  
人間文化研究科博士前期課程 発達社会科学専攻  
開発・ジェンダー論コース  
ジェンダー関係論(前期)  
ジェンダー関係論演習(前期)  
開発・ジェンダー論特論(前期)  
人間文化研究科博士後期課程 人間発達科学専攻  
ジェンダー論講座  
ジェンダー史論演習(1)・(2)

川嶋 瑤子

コア科目(基礎講座)女性問題(前期)  
人間文化研究科博士前期課程 発達社会科学専攻  
開発・ジェンダー論コース  
国際社会ジェンダー論(前期)  
開発・ジェンダー論特論(前期)  
発達社会科学論(後期)

## 6. 文献・資料収集/情報提供/閲覧

<収集資料点数>

平成11年4月から平成12年3月までに収集した資料は和漢書  
単行本387冊、洋書単行本112冊、その他雑誌、パンフレット  
など多数。

### ＜主要収集資料＞

ジェンダーとセクシュアリティに関する文献・資料／フィリピン・インドの女性に関する文献・資料／開発とジェンダー教育に関する文献・資料／女性と自然科学者に関する文献・資料／リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する文献・資料／アジアの女性政策と開発に関する文献・資料／女性とたばこをめぐる関係資料／韓国の女子中等教育に関する資料／韓国の女性政策に関する資料

### ＜資料提供＞

- 菱沼町展示館（仮称）にて、「荻野吟子コーナー」（菱沼町出身の女医第一号）常設展示の設置に伴い、写真3点を展示資料として提供。（8月）
- 第17回「日本初の女性化学者—黒田チカ博士」化学会館化学史資料展示のために、黒田チカに関する資料を提供。（展示期間：平成11年8月30～平成12年3月10日）
- 東京大学史料室の出版物『英文年譜』に資料（保井コノ氏写真1葉）提供。（12月刊行）
- ジュニア版「目でみる人間図書館（仮称）」第8巻『学問・マスコミ人物事典』に黒田チカ、湯浅年子の写真提供。（平成12年4月刊行）
- 埼玉県庁『彩の国人物見聞録』制作のために、「荻野吟子」に関する所蔵資料の撮影及び収録出版協力。（3月刊行）
- 東京都近代文学博物館常設展示「文学のある風景・東京—昭和Ⅱ—」のために資料を提供（展示期間：平成11年12月9日～平成12年4月16日）
- ふえみん婦人民主新聞新年号特集に保井コノの写真1葉提供
- NHK衛星第一『21世紀への証言—グロリア・スタイネム』番組作成にあたり資料（[MS.] 4冊）提供

＜リファレンスサービス、資料及び情報の提供・閲覧・貸出・常設展示＞

- コピーサービス：常時附属図書館情報サービス・情報システム係で担当
- ホームページ（和文・英文）の更新実施
- 図書以外に関する情報提供

### ＜図書・資料寄贈＞（敬称略）

掲載は、和書：寄贈者名『書名』（著者名）、洋書：寄贈者名書名（イタリック）（著者名）の順とした。

生活文化研究会『優しい去勢のために』（松浦理英子）岸和田市立女性センター『きしわだの女たち』（岸和田市立女性センターきしわだの女性史編纂委員会編著）、山本禮子『植民地台湾の高等女学校研究』（山本禮子）、佐藤令子『菊と十字架（上）』（ヨーゼフ・スピルマン、佐藤令子訳）、国際交流基金『女性のパートタイム労働』（国際交流基金編）、ジョジョ企画『女たちの20世紀・100人姉妹たちよ』（ジョジョ企画編）、平野由紀子『低き心 高き志』（関根慶子博士追悼文集刊行会）、長江曜子『21世紀のお墓はこう変わる』（長江曜子）、青森県女性史編纂委員会『青森県女性史 あゆみとくらし』（青森県女性史編纂委員会）、海老根静江・竹村和子『女というイデオロギー』（海老根静江・竹村和子）、杉山滋郎『日本の近代科学史』（杉山滋郎）、館かおる『男女平等の本1』、『男女平等の本2』、『男女平等の本3』、『男女平等の本4』、『男女平等の本5』、『男女平等の本6』、『男女平等の本（教師用指導書）上』、『男女平等の本（教師用指導書）下』（インゲル・ヨハネ・アルネセン他）、『現代フェミニズム理論の地平』（有賀美和子）、長池博子『女性よ賢くあれ』（長池博子）、利谷信義『エレン・ケイの恋愛・結婚・母性』（原田貫）、Kyudok Hong『亜細亜女性研究1-3』、『亜細亜女性研究4-6』、『亜細亜女性研究7-9』、『亜細亜女性研究10-12』、『亜細亜女性研究13-15』、『亜細亜女性研究35』、『亜細亜女性研究36』、『亜細亜女性研究37』（亜細亜女性問題研究所）、世田谷区生活文化部男女共同参画推進室『せたがや女性史』、『里から町へ』（世田谷女性史編纂委員会編）、東京大学社会科学研究所『現代日本社会1-7』、『20世紀システム1-6』、『社会科学研究 第46巻第1号～第49巻第6号、第50巻第2号～第51巻第1号』、『東京大学社会科学研究所年報』（東京大学社会科学研究所編）、原ひろ子『単身赴任』（岩男寿美子他）、『ニムの沈黙』（韓龍雲）、『李陸史詩集』（李陸史）、『自分らしく歩んで』（小野関千枝子）、『女性研究者のキャリア形成』（原ひろ子編）、『フェミニズムの母たち』（マーガレット・ベイエ）、『愛される理由—State of the Heart』（二谷友里恵）、『アメリカ性革命報告』（立花隆）、『イーグルウーマン—盾の教え』（リン・アンドルーズ）、『一女優の歩み—井上正夫・村山和義・薄田研二の時代』（内田礼子）、『沖縄のハルモニ—大日本売春史』（山谷哲夫編）、『お産がゆく—少産時代のこだわりマタニティ』（きくちさかえ）、『女三代の百年』（広田寿子）、『女と「遊び」の時代』（藤原房子他）、『女の生きかた—主婦作家の日々』（郷静子）、『家族の四季—台所のティータイム』（金森トシエ）、『家庭と職業—婦人の二つの役割』（A・ミュルダール他）、『記者の目女の目—

わたしの主観的取材ノート』(下村満子),『教育女性学入門』(村田鈴子),『ジェンダーと愛—男女学入門』(山本哲士),『女子刑務所』(ナワル・エル・サダーウィ),『女性ドキュメンタリストの回想』(厚木たか),『女性の幻覚と妄想』(倉持弘),『新版あゝ野麦峠—ある製糸工女哀史』(山本茂実),『性教育をめぐる問題事例』(沢田慶輔他編),『世界の性革命紀行』(上前淳一郎),『タイ娼館・イサーンの女たち』(富岡悠時),『第三期の女性—ライフサイクルと学習』(天野正子),『鈍根の花—女広告人の歩み』(八坂有利子),『日本中世女性史の研究』(脇田晴子),『日本の母子関係—その心理的な問題』(津留宏),『女房学入門』(山下恵子),『願ひ限りなく—原水禁運動にかけた女医の生涯』(服部翠),『パートナー—結婚する時、しない時』(神津カンナ),『母の力』(徳田虎雄),『引き裂かれた性』(現代の眼編集部編),『北陸に生きる女—聞きがき抄』(井上雪),『マザー・マシン—知られざる生殖技術の実態』(ジーナ・コリア),『娘たちのネービー・ブルー—宮城県石巻高等女学校昭和20卒生学徒勤労動員横須賀白梅隊』(大住恭子),『娘と私の天中殺旅行』(佐藤愛子),『迷宮の女たち』(野島秀勝),『やわらかいフェミニズムへ』(大庭みな子),『甦る魂—性暴力の後遺症を生きぬいて』(穂積純),『嫁と姑—よめとしゅうと』(及川和治),『ワーキングマザー』(平田圭子),『わたしの中の大正・昭和』(中村文子),『私は女スパイだった—マルト・リシャル自伝』(マルト・リシャル),『わたしは女の子』(犬養智子),『私はナース—看護婦20人の手記』(エキスパートナース編集部編),『拒食症—女たちの誇り高い抗議と苦悩』(スージー・オーバック),『女が子どもを産みながらいない理由』(吉廣紀代子),『ク スクップ オルシベ—私の一代の話』(砂沢クラ),『ピアスをした女性技術者たち』(田村奈穂江),『リーダーシップの未来—男性のリーダー・女性のリーダー』(江上節子),『女性学教育/学習ハンドブック—ジェンダーフリーな社会をめざして』(国立婦人教育会館女性学・ジェンダー研究会編著),『歴史の中で語られてこなかったこと』(網野善彦他),『ジェンダーに関する自己概念の研究—男性性・女性性の規定因とその機能』(土肥伊都子),『孝と母性のメカニズム—中国女性史の視座』(下見隆雄),『育児不安をこえる子育ての輪』(池亀卯女),『お母さんが元気に働く本—23区別情報:東京ママおたすけ本』(パンドラカンパニー編),『決断した女たち』(NHK新・日本人の条件プロジェクト),『行動する女たちが明日をひらく—2年目の記録』(国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会),『子捨て夫捨てのすすめ—ほんとうの良妻賢母は自立

する』(笹野貞子),『子育て—21世紀の設計』(これからの家庭と子育てに関する懇談会),『さまざまな性』(山本直英他編),『シモーヌ・ヴェイユ—その極限の愛の思想』(田辺保),『植民地台湾における高等女学校出身の女教師の実態と意識』(新井淑子),『女性の尊厳と使命—教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡』(初見まり子他訳),『地球のうえの女性—男女平等のスズメ』(小寺初世子),『地球の花嫁をもらおう』(佐久間寿郎),『知的子育てのすすめ—古い子育てに真向から対決する女性論』(池木清),『働く母たちの定年—百人の証言』(働く母の会編),『福島瑞穂の夫婦別姓セミナー—これからの「家族のカタチ」を考える』(福島瑞穂),『ママは太陽のハポネシータ』(岡本弘子),『魅せられて、南極—初の女性観測隊員奮闘記』(森永由紀),『みどりごとともに』(内山和子),『娘と私の部屋』(佐藤愛子),『薬物依存の少女—歪んだ道のり』(森田昭之助),『わかりたいあなたのためのフェミニズム・入門』(江原由美子他),『わたしのからだよ!—いやなふれあいだいきらい』(ロリー・フリーマン),『育てパートナーシップ! さくらフォーラム 平成9年度記録集』(育てパートナーシップ! さくらフォーラム),『家庭機能とその施策の充実の方向に関する調査報告書』(経済企画庁国民生活局編),『女性の自立とライフ・サイクル』(森主一他編),『男・おんな 現代の性—女性記者のレポート』(富重圭似子他),『母乳哺育—自然の贈物』(ダナ・ラファエル),『老期の性』(大工原秀子),『「家族」の未来 “ジェンダー”を超えて—毎日新聞社・第24回全国家族計画世論調査』(毎日新聞社人口問題調査会編),『CRグループとは何か?—輝くシスターフッドに向けて』(田上時子),『92連合女性集会記録集』(日本労働組合総連合会),『女ざかりからの出発』(桐島洋子),『女とは何か—韓国知識人からのメッセージ』(金容沃),『少女民俗学—世紀末の神話をつむぐ「巫女の末裔」』(大塚英志),『女性の生き方と今後のライフコース設計』(生活科学研究所編),『統計にみる女性の現状』(婦人教育研究会編),『女房閨白—亭主がぎよっとする話』(柏木まき子),『私たちに語りかけたもの』(丸岡秀子さんを偲ぶ集い)事務局編),『私の目を見て—レズビアンが語るエイジズム』(バーバラ・マクドナルド他),『ああ!!女が日本をダメにする』(安部譲二),『東京ワーキングマザーお助けガイド—妊娠・出産・保育園』(ぐるうぷ・パンプス),『性の人類学—サルとヒトの接点を求めて』(高畑由起夫編),『巫神との饗宴—韓の国・巫祭記』(加藤敬),『知的女性のライフワーク』(南和子),『あなた朝鮮の十字架よ』(張貞任),『ひびけ笛ヒマラヤに—立川女子高校山岳部ヒマラ

- ヤ遠征同伴記』(平山三男),『欲望のメディア』(猪瀬直樹),『永遠のリカちゃん』(増淵宗一),『我が国における児童観の発達』(石川謙),『文化の謎を解く—牛・豚・戦争・魔女』(マーヴィン・ハリス),『母娘の風景』(松本侑壬子),『伴侶の死』(加藤恭子),『フェミニズム問題の転換』(金井淑子),『現代のしつけと親子関係』(姫岡勤),『構造・神話・労働』(大橋保夫編),『離婚—比較社会学的研究』(坪内良博、坪内玲子),『子育てごっこ』(三好京三),『おかあさん33集—給食うんぱん』(児童憲章愛の会),『父ありき』(朝日新聞こころのページ編),『親子って何だろう—なだいなだの親子観』(なだいなだ),『幼児体験—母性と父性の役割』(鈴木秀男),『名作に見る子どものしつけ』(鈴木道太),『新人類のための育児学ノート』(新島淳良),『胎児へのまなざし—生命イデオロギーを読み解く』(バーバラ・ドゥーデン),『ナーサーガン病棟の記録』(ペギー・アンダーソン),『家族と人口の歴史社会学—ケンブリッジ・グループの成果』(斎藤修編),『看護の社会学』(米山桂三),『暮しの探検—文化人類学から新しい家庭のあり方を考える』(米山俊直),『現代日本の労働問題—新しいパラダイムを求めて』(戸塚秀夫),『花のように—小児科医の思い』(馬場一雄),『消費者教育—理念と方法』(日本消費者教育学会編),『桃尻語枕草子』(橋本治),『地域社会と家族』(篠原武夫),『近代日本の二人の主演』(笠原一男),『放送ウーマンの70年』(日本女性放送者懇談会編),『青雲の時代史—芥舟録・一明治人の私記』(大沢由也),『ナヤ・ヌキ—大草原を逃げ帰った少女』(ケネス・トーマスマ),『人口と家族の社会学』(清水浩昭),『本のなかの少女たち』(津島佑子),『翔べない女の年輪』(吉田知子),『植民地主義と文化—人類学のパースペクティヴ』(山下晋司),『あかちゃんはどうして生まれるの?』(たけかわゆきお),『魔法の玉』(大庭みな子),『性と文化の錯綜』(E・H・エリクソン),『虹の橋づめ』(大庭みな子),『海にゆらぐ糸』(大庭みな子),『マタニティブルー—赤ちゃんを抱いた泣きべそママたち』(木村もちこ),『女性の年金のすべて』(国井国長),『自立した女たちの履歴書』(やまだあき),『テレビと子ども』(子どものテレビの会編),『テレビメディアの社会力』(藤竹暁),『ホームオートメーション』(手塚政仁),『闇に漂う子どもたち—カメラが追った夜間保育』(河島静代),『むらを動かす女性たち』(農村女性問題研究会編),『生きる愉しみ老いる愉しみ』(金森トシエ),『わが息子、娘に語る人生でいちばん大切なこと』(フランシス・B・パーネル),『非行克服と家庭教育』(能重真作),『わが子を米国で教育して』(中地克子),『子育ての中の基礎体力づくり第2集』(文部省体育局編),『育ち盛り—10歳~14歳』(文部省体育局編),『子どもの目—わが子は何を求めているか』(梅崎光生),『私たちの暮らしI—IV』(農林水産省農蚕園芸局生活改善課),『らくだ式学習法』(間瀬中子),『ムがいっぱい—タイ少数民族カレンの村で』(やまもとくみこ),『人の子犬の子』(森永良子),『図説変わる家族と小・中学生』(日本女子社会教育会編),『家族制度論』(青山道夫),『中学生・高校生の意識—受験・校内暴力・親子関係』(NHK世論調査部編),『ショージ君の男の分別学』(東海林さだお),『聖姫が笑った—ガンに克った母と娘の記録』(崔雲姫),『社会のなかの看護婦さん』(大段智亮),『患者の求める看護婦さん』(大段智亮),『イスラム社会の性と風俗』(アブドゥルワハブ・ブーディバ),『夫婦・親子—夫婦・親子・男女間のトラブル解決法』(菊本治男),『落ちこぼれ家庭 上』(藤原審爾),『落ちこぼれ家庭 下』(藤原審爾),『夫婦親子男女の法律知識—最新版 改訂版』(自由国民社編),『子どものソフトサイン—子育ての科学』(馬場一雄),『子育て学—親を創る「子育て」の知恵』(静岡女子大学婦人教育推進委員会編),『男無用の子育て』(美尾浩子),『知的子育てのすすめ—古い子育てに真向から対決する女性論』(池木清),『子どもをダメにした親たち』(深沢道子),『わが家の教育』(灯台編集部編),『わが家の教育—第二集』(灯台編集部編),『わが家の教育—第三集』(灯台編集部編),『ぼくの子育て日記—40人の親父の育児論』(藤本義一),『子育ての心—いま育児にとって大切なもの』(沢田啓司),『みんな地球に生きるひと』(アグネス・チャン),『「クレイマー、クレイマー」以後—別れたあとの共同子育て』(棚瀬一代),『野生ニホンザルの育児行動』(長谷川真理子),『動物の親は子をどう育てるか』(増井光子),『この子が、なぜ…—現代と少年非行』(望月一宏),『安心育児の知恵64章』(松田道雄),『人間現象としての保育研究』(津守真),『隣りの子育て50のレポート』(フレール館編),『ひとりっ子—自立心をどう育てるか』(依田明),『ふたりっ子家族の親離れ・子離れ』(依田明、福島章編),『松田道雄の安心育児』(松田道雄),『世界の若い市民たち—子どものしつけ見てある記』(横地清),『働くお母さんでも母乳育児ができる』(竹内政夫),『発信!子育て村から—地方版「これからの家庭と子育てに関する懇談会」』(厚生省児童家庭局企画課編),『台所育児—歳から包丁を』(坂本廣子),『子育ての町・伏見—酒蔵と地藏盆』(伏見のまちづくりをかながえる研究会),『日本の親子観をさぐる—「さんせう太夫」から「忠臣蔵」まで』(片岡徳雄),『子育て廃業宣言—子離れのすすめ』(平井雷太),『育児学』

(マルセル・ルロン),『比較家族史研究』(比較家族史学会),『高齢者と女性を中心とする新しい「働き方」についての研究』(天野正子),『女ひとり原始部落に入る』(桂ユキ子),『インド・不可触民の女たち』(山下明子),『地方行政資料目録—国立婦人教育会館所蔵』(国立婦人教育会館婦人教育情報),『女性の職業と収入ガイド』(自由国民社ガイド版編集部編),『女二人のニューギニア』(有吉佐和子),『職場で悩む女性へ』(石川弘義),『婦人労働の実情』(労働省婦人少年局編),『トータルパースンの子育て』(万代恒雄),『女子大生のリックブック』(稲毛教子),『十二支—生れ年がきめる男女の相性と金の運』(黄小娥),『種の起源上』(ダーウィン),『種の起源中』(ダーウィン),『種の起源下』(ダーウィン),『日本人は変わったか』(志水速雄),『日本文化の原像』(飯島茂),『社員という名の家族』(松尾博志),『知的女性パワー活用型販促活動の実態と戦力化の動向』(矢野経済研究所),『女房に会社を作らせる法』(亀岡太郎),『社会の発見』(神奈川大学評論編集専門委員会編),『婦人労働の実情』(労働省婦人少年局編),『国連婦人の10年世界会議』(内閣総理大臣官房婦人問題担当室編),『現下の人口問題—日本の人口及び人口問題』(厚生省人口問題研究所編),『家族と法—家族と法を学ぶための基礎知識』(田中実),『女房の本音とネパール旅行—もうひとつのフェミニズム!』(前田廣子),『家庭崩壊・学級崩壊・学校崩壊』(松居和),『家族関係学総論』(松島千代野),『最低生活費の研究』(労働科学研究所),『老人と家族の暮らしの相談室—老年期の健康と衣・食・住』(柴田博編),『生活水準の歴史的分析』(日本リサーチ総合研究所編),『すてきな女性—その生き方と職場のマナー集』(三枝佐枝子),『ルンルン症候群』(林真理子),『破局』(斎藤茂男),『ボクたち空中人間—高層住宅の母親による「手づくり保育」』(つまただし),『女の分断を連帯に』(女の分断を連帯に国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会),『婦人の現状と施策—国内行動計画に関する報告書第三回』(総理府編),『婦人の現状と施策—国内行動計画報告書第二回』(総理府編),『婦人の現状と施策—国内行動計画報告書第三回』(総理府編),『婦人労働の実情』(労働省婦人少年局編),『女性のための法学』(中川淳編),『社会的ネットワーク—アフリカにおける都市の人類学』(J・C・ミッチェル編),『売り場のヒット商品学—ある女性マネージャーの記録』(石原一子),『松田道雄の続・安心育児』(松田道雄), Malavika Karlekar *Systems for Infrastructure Development* (Yuzo Akatsuka, Tsuneaki Yoshida), Kyudok Hong *Asian Women* 1-8 (Research Institute for Asian

Women), 東京大学社会科学研究所 *The Political Economy of Japanese Society* 1-2 (Junji Banno), Patricia Uberoi *From Independence Towards Freedom* (Bharati Ray Aparna Basu), Malavika Karlekar *Indian Journal of Gender Studies* (Centre for Women's Development Studies), Patricia Uberoi *SIGNPOSTS: Gender Issues in Post-Independence India* (Rajeswari Sunder Rajan) 東京大学社会科学研究所 *Social Science Japan Journal* Volume 1 Number 1-2, Volume 2 Number 1-2, *Social Science Japan* 1-17, *Institute of Social Science* Volume 22 (東京大学社会科学研究所) 原ひろ子 *Risks, Rights and Reforms* (Women's Environment and Development Organization), *The Amud Man and His Cave Site* (鈴木尚・高井冬二編), *El Filibusterismo* (Jose Rizal), *International Women's Decade: A Balance Sheet* (Lucille Mathurin Mair), *Madchenlust, Madchenfrust: junge Frauren in d.* (Kleine Hexe e. V.), *Nation-State, Identity and Religion in Southeast Asia* (Tsuneo Ayabe), *Patterns of Sexual Behavior* (Clellan S. Ford), *Report of the Seminar on Perspectives and Organisation of Women's Studies Units in Indian Universities* (Research Group on Women's Studies), *Sex and Repression in Savage Society* (Bronislaw Malinowski), *Sex and the Significant Americans: A Study of Sexual Behavior among the Affluent* (J.F. Cuber and P.B. Harroff), *The Future of Motherhood* (Jessie Bernard), *The New Executive Woman* (Marcille Graw Williams), *The Ties That Bind: In Search of the Modern Singapore Family* (Aware), *Village Women Their Changing Lives and Fertility: Studies in Kenya, Mexico and the Philippines* (Priscilla Reining), *Why Women Don't Have Wives: Professional Success and Motherhood* (Terri Apter), *Woman's Role in Economic Development* (Ester Boserup), *Women and Empowerment: Strategies for Increasing Autonomy* (C. Margaret Hall), *Women, Sexuality, and Social Control* (Carol Smart and Barry Smart), *Educational Standards in Japan, 1975* (Ministry of Education, Science & Culture), *Sex Discrimination and the Law in Hawaii: A Guide to Your Legal Rights* (Judith R. Gething), *The Jewish Woman: New Perspectives* (Elizabeth), *Women in the Kibbutz* (Lionel Tiger), *Women's Information Network for Asia and the Pacific* (WINAP) (United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific), *Women's Studies Women's Lives: Theory and Practice in South and Southeast Asia* (Committee on Women's Studies in Asia eds.), *All the Sexes: A Study of Masculinity and Femininity* (George W. Henry), *Before Sexuality: The*

*Construction of Erotic Experience in the Ancient Greek World* (David M. Halperin), *Betty-san: Stories* (Michiko Yamamoto), *Descriptive Distinctions: Sex, Gender, and the Social Order* (Cynthia Fuchs Epstein), *Females, Males, Families: A Biosocial Approach* (Lila Leibowitz), *Human Sexuality in Four Perspectives* (Frank A. Beach), *Middle Eastern Muslim Women Speak* (Elizabeth Warnok Fernea), *Sex Roles and Social Change in Native Lower Central American Societies* (Christine A. Loveland), *Sex Roles: A Research Bibliography* (Helen S. Astin), *The American Sisterhood* (Wendy Martin), *The Second Season: Life, Love and Sex Women in the Middle Years* (Estelle Fuchs), *The Sociology of Sex: An Introductory Reader* (James M. Henslin), *The Wedding of the Dead: Ritual, Poetics, and Popular Culture in Transylvania* (Gail Kligman), *The Woman in Question: M/f* (Parveen Adams), *The Women's Wheel of Life: Thirteen Archetypes of Woman at Her Fullest Power* (Elizabeth Davis), *This Working-Day World: Women's Lives and Culture(s) in Britain 1914–1945* (Sybil Oldfield), *Urban Japanese Housewives* (Anne E. Imamura), *Women and Japanese Management: Discrimination and Reform* (Alice Lam), *Women and Men Midwives* (Jane B. Donegan), *Child of Fortune* (Yuko Tsushima), *Feminism and Censorship: The Current Debate* (Gail Chester), *Feminism, Marriage, and the Law in Victorian England, 1850–1895* (Mary Lyndon Shanley), *Five Thousand Personalities of the World* (American Biographical Institute), *Gender and Culture: Kibbutz Women Revisited* (Melford E. Spiro), *Going Solo: Single Mothers by Choice* (Jean Renvoize), *Men and Marriage: The Changing Role of Husbands* (Elizabeth C. Mooney), *Perceiving Women* (Shirley Ardener), *The German Women's Movement* (Ingeborg Drewitz), *The Kinsey Institute New Report on Sex: What You Must Know to be Sexually Literate* (June M. Reinisch, Ruth Beasley), *Thinking Fragments: Psychoanalysis, Feminism, and Postmodernism in the Contemporary West* (Jane Flax), *Women and Higher Education in American History* (John Mack Faragher), *Women in the American Economy* (W. Elliot Brownlee), *Women: A Bibliography on Their Education and Careers* (Helen S. Astin)

<来館・閲覧者> (抄) (敬称略、表記は記名による)

平成11年4月5日 桜井恵子 (桜花女子学院中・高校), 4月16日 逸見勝亮 (北海道大学), 5月7日 村上薫 (アジア経済研究所), 5月13日 加藤直一 (NHK), 5月18日 Girija

(Senior Research Associate), 5月21日 鄭魯及 (城西国際大学大学院), 6月7日 テーユーミン (茨城大学), 6月10日 小林富久子 (早稲田大学商学部), 6月21日 Sally Hastings (Aisterg Purdue University), 6月28日 H. Opschoor (ISS Netherlands), 6月30日 ウオン・ローラ (ハーバード大学), 8月4日 瀬古素子 (国連大学高等研究所), 8月4日 マンガラ・スブラマニウム (国連大学高等研究所), 8月5日 Anne Walthall (University of California, Irvine), 8月11日 市川絢子 (淑徳短期大学), 8月31日 峯村絢子 ((株)三省堂), 8月31日 内田加奈美 (国府台女子学院高等部), 9月3日 武中あゆみ, 9月29日 古川彩 (上智大学), 10月1日 村上由希子 (東洋大学), 10月4日 長谷川清美, 10月28日 羽田野慶子 (東京大学大学院), 11月5日 Linda Andersen (The Japan Foundation, Japanese Institute, Kansai), 11月15日 朴恵娥 (昭和女子大学), 11月16日 佐藤美穂 (女性と健康ネットワーク), 12月1日 Ranjana Sheel (Japan Foundation, Kansai), 12月8日 鄭逸善 (国立婦人教育会館), 12月10日 重住禎子 (お茶の水女子大学卒), 1月31日 住田妙子 (南山大学研究生), 2月4日 吉松繁 (日本キリスト教団王子北教会), 2月8日 鳥養映子 (山梨大学助教授)